

群 教 セ	F08 - 01
	令 2.275 集
	生徒指導

# 個人や集団のよさを認め、互いに高め合うことのできる生徒の育成

—日常生活や行事での振り返りシートを活用した学級活動を通して—

特別研修員 萩原 正人

## I 研究テーマ設定の理由

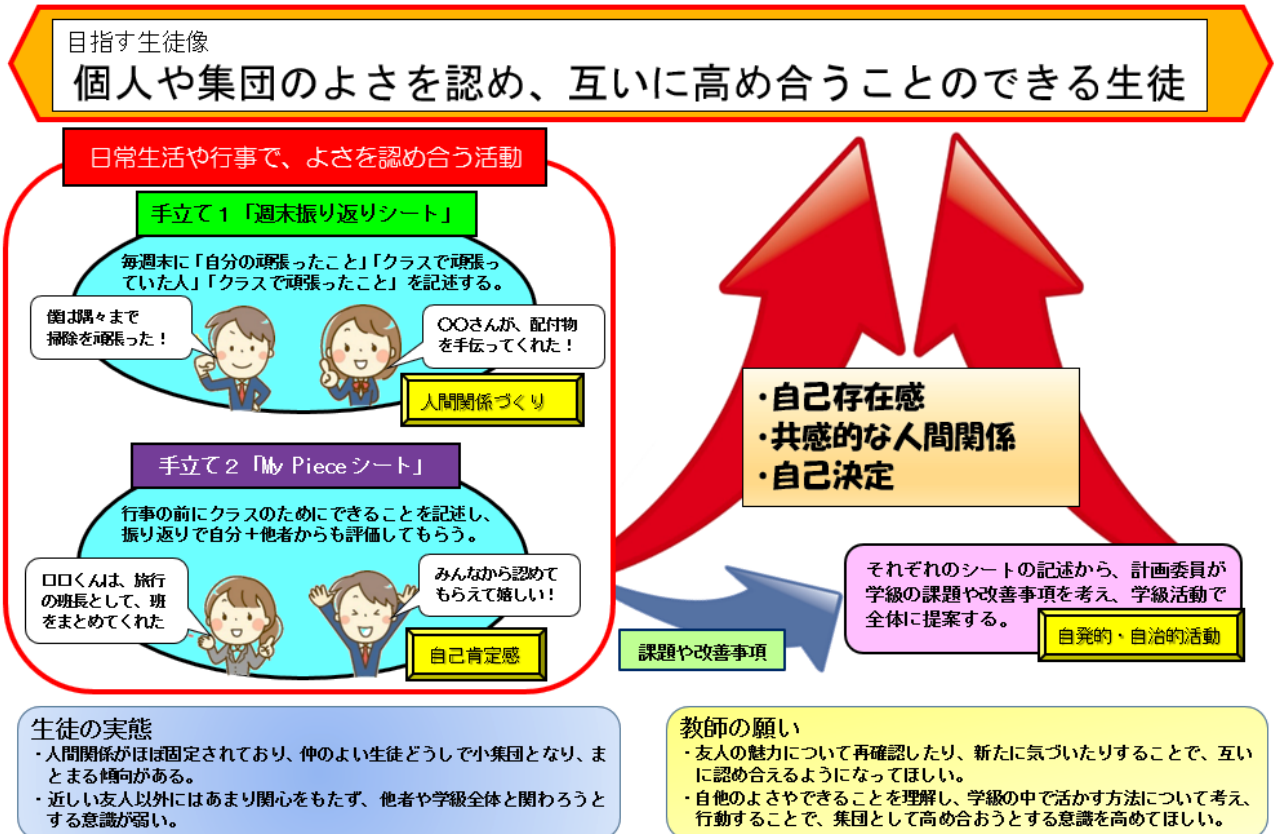
令和2年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）の学級経営・生徒指導の内容においては、生徒指導の三つの機能を生かした日常的な指導・支援という項目の中で「全ての児童生徒の成長を促すため、日々の授業や行事など、学校生活全体において、次の三点に留意し、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指しましょう」と示されており、その三点として「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」を挙げている。また、集団指導と個別指導の充実の項目では、「学級経営においては、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用を生かした指導・支援に取り組みましょう」と示されている。

そこで本研究では、日常生活の中で自分や学級の生徒、学級全体で取り組んだことの頑張りを認める機会を意図的・定期的に行ったり、各行事の前に個人目標を設定し、行事後に自分だけでなく他者からの評価を含めて振り返ったりする活動を学級活動の年間指導計画に設定した。これらの活動において自己のよさを認めてもらうことで、自己有用感や自己肯定感が高められて「自己存在感」につながると考え、あわせて他者の頑張りを認めることで、そのよさを学び合おうとする「共感的な人間関係」を築くことができると考えた。さらに、学級全体で改善方法を図るという、自発的・自治的な活動が「自己決定」の場となるものと捉えた。

これらの活動を通して、生徒一人一人が自分や他者、そして学級のよさを認めることができ、高め合いながら成長していこうとする姿勢が身に付くものと考え、本研究のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

互いに高め合う雰囲気を作るためには、まず他者の頑張ったことやよさを日常的に発見したり、素直に認めたりすることができる習慣を身に付けることが重要であると考えます。また、自分を高めようとするには、「できた」という成功体験から達成感を味わわせ、自己肯定感・有用感へ高めていく必要がある。このことから、次のような手立てを設定して活動を行った。

### 手立て1 週末振り返りシートの活用

毎週末に「自分の頑張ったこと」「クラスで輝いていた人」「クラスみんなで頑張ったこと」を、帰りの短学活の前に記述する。記述後に回収し、コピーしたものを教室などに掲示して互いに共有する。原本には教員がコメントを書き、返却して保存させる。

### 手立て2 My Piece シートの活用

行事の前に、係の仕事や出場する場面などで「自分がクラスのためにできること」を記述し、行事後の振り返りの授業で自己評価をするとともに、グループ内でも評価してもらう。その評価を見て、改めて自分の活動を振り返る。また、手立て1と同様に、生徒の記述を掲示・紹介したり、教員がコメントを書いたりする。

これら2つの手立てで用いたシートの記述については、それ自体で自他や学級のよさを認めるものになっているが、学級活動においても、事前の活動として計画委員が教師とともに記述に目を通し、その中から学級の課題や改善方法について考え、議題として全体に提案したり、自分の書いた記述を再度読み返すことで自分や友達のよさを考えさせて、課題の解決につなげたりする活動にも活用することができる。

このようにして学級全体で考え、話し合い、決定した内容は、事後活動として適宜全員で、または学級委員や係・班の代表者などで取組を評価していく。そうすることで、一人一人が学級のために活動し、互いに高め合おうとする意識をもたせることができると考える。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- それぞれのシートの記述には、友達の積極的な行動だけでなく、清掃や手伝いなど日常の細かい行動についても互いに認め、褒め合う内容も見られた。このような自他の取組を評価し合うことで、自己存在感が高まり、他者への理解が深まった様子も多く見られた。また、記述対象を「異性」や「同じ係の人」など限定したり、「あなただけが見た（知った）隠れた友達のよさ」をなるべく書かせたりと、似通った内容や同じ生徒をたびたび書くということのないようにすることで、多くの友達の新たなよさや魅力に気付く記述も見られ、本手立ては互いのよさを認めるのに効果的であったと考える。
- 二つのシートの記述から課題や改善事項を考え、全体に提案することで、学級全体を自分たちでよりよいものにしていこうという意識にもつながり、集団としての高め合おうとする様子も見られた。活動の中で合意が図られたものについては、『自分たちで決めたことはしっかり守る』という意識をもち、実際に行動に移すことができていた。

### 2 課題

- 二つの手立ての記述内容については、提出・確認後に掲示するだけでなく、通信で取り上げたり短学活で紹介したりするなど、様々な場面で活用し、「もっと頑張ってもらいたい」という個々の意欲や、「この学級はみんなで頑張っている」という全体としての一体感につなげたい。
- 『My Piece シート』は、使い方や内容を精選し、汎用化させて様々な学級活動に対応させることができるものと思われる。普段の学級活動の場面でも、話し合いに積極的に参加していたことや、自分でこういう発言ができた等を記述できるようなものを作成し、多くの場面で使用することで、一人一人が更に互いによさを認め、高め合う意識をもたせたい。

## 実践例

### 1 議題名 「私たちのクラスをよりよくするための計画を考えよう」 (第3学年・2学期)

#### 2 本議題について

本議題は、中学校学習指導要領解説(平成29年告示)特別活動における学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の「イ 学級内の組織づくりや役割の自覚」に関するものである。

研究協力校では、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため6月中旬まで一斉登校ができず、多くの行事が延期や中止、縮小になった。そのため3年生が学校活動の中心となって活躍する機会が大幅に減り、最上級生としての自覚や誇りを身に付けたり、満足感や達成感を味わったりする経験がほとんどできず、個人としても集団としても『高める・高め合う』活動が十分ではない。

そこで、卒業までに一人一人のよさや得意なことで学級に貢献できることを全体で考え、計画し、実際に活動することで、満足感や達成感を味わうことができる題材を考えた。また、その中で友達とよさを認め合い、協力していくことで学級全体をよくしていこうとする意識も高まり、本研究の目指す生徒像につながるものと考えた。

このことから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	一人一人のよさや得意なことを生かして、卒業までによりよい学級を作る計画を考える活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア	学級における生活上の役割を担う活動の意義を理解し、学級としての目標の実現のために必要なことを、話し合いを通して考え、互いに高め合うことができるようにする。(知識及び技能)
	イ	学級や自己の課題解決に必要な役割を自覚することで、学級や学校の生活をよりよい方向に向上させようとする。(思考力、判断力、表現力等)
	ウ	よりよい学級を作るために、他者と協働しながら自主的に解決に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)
過程	主な内容	主な学習活動
事前の活動	問題の発見・確認	・昼休みや放課後等の時間を使って、計画委員が教師と進行についての打合せを行う。学年旅行の振り返りの記述から、学級で取り組む課題について把握する。 ・本時に向けて、学級に関するアンケートを行い、本時が円滑に進行できるように、必要と思われる係・役割をあらかじめ付箋に記入する。
本時の活動	解決方法等の話し合い・決定	・「よりよい学級づくり」について、考えてきた個人の意見を班ごとにまとめて学級に提案し、学級全体で合意形成を行う。
事後の活動	実践	・係員を決定し、仕事内容や作業日程について係ごとに考える。 ・各係の取組について実践し、代表者による実践報告を定期的に行う。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

##### 手立て1 週末振り返りシートの活用

毎週末に書かせる『週末振り返りシート』に、学級の雰囲気が非常によいという記述があった。そこで、これを学級全体で感じているか確認するため、「クラスの雰囲気がよい」「一人一人の個性が活かされている」といった項目でアンケートを行い、その結果を計画委員と集計した。集計したものをグラフで表し、本時の議題の理由を計画委員がモニタに提示しながら説明し、学級の課題として全体に把握させた。

また、生徒が学級をよりよくする係や役割を考える際に、これまでのシートの記述を振り返り、自分や友達のを生かしたものがいないか考えさせた。

##### 手立て2 My Piece シートの活用

『My Piece シート』を使って、学年旅行における係の仕事の取組について互いに評価し、次回の活動への意気込みを書かせた際に、「これからも自分の仕事に責任をもって取り組みたい」「卒業時にこのクラスでよかったと思いたい」という記述が見られた。これを学級の改善点として計画委員にとらえさせ、手立て1と同様に全体で共有させた。また、係や役割を考えさせる際にも手立て1と同様に活用した。

## 4 授業の実際

### (1) 事前の活動

本時の活動前に、昼休みや放課後の時間を使って計画委員と打合せを数回行った。『週末振り返りシート』を基にした学級に関するアンケートの回答や『My Piece シート』の記述から、学級で取り組むべき課題について考えたり、当日の進行の役割分担について確認をしたりする内容であった（図1）。

また、生徒全員にあらかじめ付箋を配り、よりよい学級にするために必要と思われる係や仕事・役割について、事前に理由も含めて考えて書いてきてもらい、当日の活動が円滑に進むようにした（図2）。その際に、これまでに記述した個人の振り返りシートの入ったファイルもあわせて一人一人に配り、自他のよさを認め合ってきた活動も参考に考えてくるように伝えた。

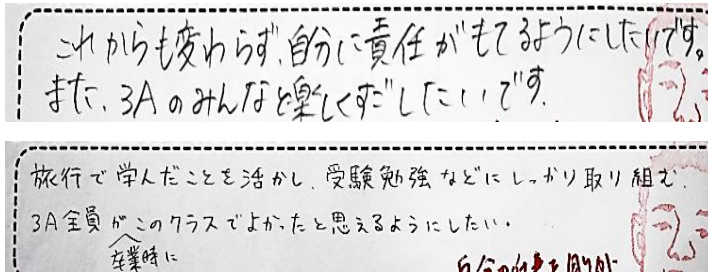


図1 生徒の My Piece シートの振り返りの記述

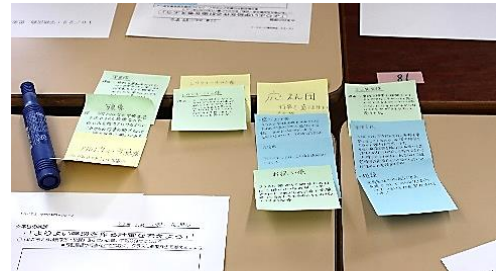


図2 生徒が予め記入してきた付箋

### (2) 本時の活動

計画委員によるアンケートの結果や学年旅行についての『My Piece シート』の記述内容の紹介の後に、本時の議題を確認した。その後、話し合いの手順について計画委員から連絡し図3のように小グループに分かれ、図4のように付箋に書いてきた各自の意見をまとめて一つずつ紙に書いた。そして、まとめられたものについて、図5のようにそれぞれのグループが学級全体に発表し、提案として黒板に掲示した。



図3 グループでの意見交換



図4 付箋の意見をまとめる

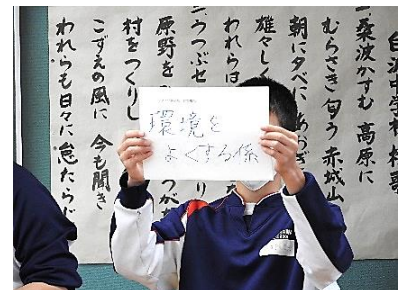


図5 係・役割を学級に提案

全てのグループの発表後に、計画委員を中心に、出された提案を整理・集約していった。図6のように、黒板に貼られている紙について、同じ内容のものが書かれたものを重ねたり、いくつかの係や仕事を一つにまとめたりするなど、必要な係を絞り込んでいく話し合い活動を行った。またその際、不要に思えたり、実現が困難に思われたりするものについても、最初から否定せずに学級で話し合わせるように予め計画委員と打ち合わせておいた。そのため、どのような考えで提案しようと思ったのか、提案者の考えを再度しっかり聞くべきだという意見が出され、話し合いがとても活性化し、充実したものになった。



図6 計画委員を中心に提案を整理・集約

このようにして話し合いを行った結果、40個ほどあった提案を10個程度まで絞り込むことができた。しかし、生徒の中からまだ意見が出てきそうな雰囲気の中で時間となってしまう、最終的な折り合い（合意形成）はできていない状況であった（図7）。そこで教師側から話し合いを一旦終わりにして、次時まで個々で考えてくるように伝えた。また、多くの提案や活発な話し合いができたことを賞賛し、誰もが学級をよりよくしたいという気持ちがあることにふれ、事後の活動への意欲付けを行った。

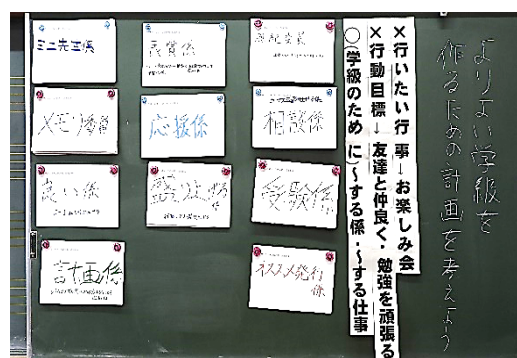


図7 話し合いで絞り込まれた係や仕事

## 5 考察

本時では、これまで一人一人が記述した二つのシートを基にして課題を設定し、「自分にできること」「一人一人の個性」などを考え、よりよいクラスを作るために必要な係や役割について意思決定ができるように話し合いの場を設けた。また、話し合いを進めるにあたり、計画委員との打合せを入念に行うことで、当日の進行をスムーズに進められるようにした。

事前の活動では、4人の計画委員との打合せ時にシートの記述内容を確認させることで、「これを書いた人だけでなく、全員がこの学級を楽しみたいと思えるようにしたい」「この学級独自の新しい係を作って、みんなで活動したら、楽しくいい雰囲気の学級になれると思う」という意見が委員の中から出された。この考えを基に打合せをしていったため、円滑に打合せが進んでいき、生徒自身でシナリオを作成するなど非常に意欲的に取り組む様子が見られた。当日進行についても順調に進めることができた。教師の介入も最後の時間調整の部分のみで、話し合い活動も活発なものになった。

計画委員以外の生徒も、事前に必要な係や役割について考えて付箋に書いてくるという段階から、明るい表情で友達と休み時間に話し合う様子などが見られた。本時の展開でも、ほとんどの生徒が積極的に話し合いに参加し、意見を交流する様子が見られた。

課題としては、付箋に自分の考えを事前に書いてきても、時間内に全ての意見について合意形成に達するまで進めることができなかつたので、今後このような展開の際には、時間設定に余裕をもち、「つかむ（めあての提示）」・「出し合う」についても簡略化を図り、教室の掲示板などに『めあて』を掲示して、あらかじめ意見（考え）を『出させて』おくことで、「比べる」ことから授業が始められるようにする。


しかし、事後の活動で更に係を絞り、仕事の内容や計画を考える場面でも、生徒は非常に生き生きとした表情が見られ、「こういうことをしたい」と次々に提案してくるなど、積極的に活動する様子が見られ、計画を実践する際も係員で役割を分担し、全員で学級をよりよいものにしていこうとする意欲が見取れた。このことは、これまでの取組・手立てによって、個人や集団のよさを認め合える雰囲気ができており、さらには、学級全体で高め合おうとする意識が高まったためである。これにより、本実践が本研究の目指す生徒像である「個人や集団のよさを認め、互いに高め合うことのできる生徒」の育成に大変効果的であったと考えられる。

手立て1 週末振り返りシート

～週末振り返りシート～

月 日  
番 名前

- 今週がんばっていた人とその場面  
[ ] の(な)人  
さん・君



- 今週、自分が頑張ったことを具体的に書こう  
(自分を褒めるつもりで色々なことを書いてみよう)

- 今週、クラスみんなで頑張ったことを書こう  
(クラスが明るくなるようなで色々なことを見つけよう)

週末振り返りシートの活用

(方法1：日常活動での活用)

- ・毎週末に「自分の頑張ったこと」「クラスで輝いていた人」「クラスみんなで頑張ったこと」を記述する。回収してコピーしたものを教室などに掲示して互いに共有する。原本には教員がコメントを書き、返却して保存させる。
- ・記述内容から学級の課題や改善点などを計画委員が考え、学級活動の時間に議題として提案させる。

(方法2：実践における活用)

- ・学級の雰囲気非常によいという記述があった。これを学級全体で感じているか確認するためアンケートを行い、その結果を計画委員と集計した。集計したものをグラフで表し、学級の課題を全体に把握させた。
- ・学級をよくするための係や役割を考える場面で、シートを読み返させて自分や友達のよさを生かせるものを考えさせた。

手立て2 My Piece シート

MyPiece シート～一人一人がクラスの一員～

組 番 名前

1. 今回の目標 (クラスや班、みんなのために、自分ができること)  
[ ]  
として、

2. 自己評価とその理由  
(A:とてもよくできた B:よくできた C:おぼろげにできた D:できなかった)  
(評価) **A・B・C・D**  
(理由) [ ]

3. 友達から (自己評価や他の人の評価となるべく違うことを書きましょう)

名前	目標にあわせた評価	他に気づいたよいところ
[ ]	[ ]	[ ]
[ ]	[ ]	[ ]
[ ]	[ ]	[ ]

4. 友達からの自分の評価で思ったこと(自己評価との比較も含めて)  
[ ]

5. 次の活動に向けたためあて  
[ ]

My Piece シートの活用

(方法1：各行事での活用)

- ・行事の前に、係や役割などについて目標を記述し、行事後の振り返りで自他評価を行う。他者の評価から改めて自分の活動を振り返る。手立て1と同様に掲示・紹介したり、教員がコメントを書いたりして保存させる。
- ・手立て1と同様に、活動の振り返りや次の活動への意気込みなどから学級活動の議題となるものを見つけて、提案させる。

(方法2：本実践における活用)

- ・本時の前に行われた学年旅行での次回の活動への意気込みの記述内容「自分の仕事に責任をもつ」「卒業時にこのクラスでよかったと思いたい」というものを学級の改善点として計画委員にとらえさせ、学級全体で共有させた。
- ・手立て1と同様に、シートを読み返させて自分や友達のよさを生かせるものを考えさせた。